

# 学生へのメッセージ 「医の道」



No.37 令和5年9月2日(月) 2023-8号

発行責任者: 神戸総合医療専門学校・松江総合医療専門学校理事長、新須磨病院院長 澤田勝寛  
[isonare@ka2.so-net.ne.jp](mailto:isonare@ka2.so-net.ne.jp) 令和3年(2021年)9月13日創刊

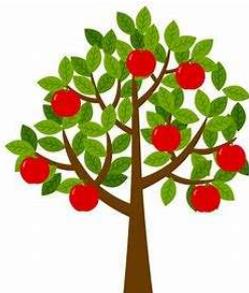
## ◆学生の皆さんへ

夏休みが終わり後期に入ります。また学生モードになって勉強に取り組むようにしましょう。最終学年の皆さんは、実習の大詰めを迎え、あとは卒試国試への備えを整える時期となります。

3年生の専門学校の魅力は、最短で国家資格が取れるということです。タイトな時間を乗り越えて本懐を遂げるようにしてください。

## ◆つみかさね 坂村真民

一球一球のつみかさね  
一打一打のつみかさね  
一步一步のつみかさね  
一坐一坐のつみかさね  
一作一作のつみかさね  
一念一念のつみかさね  
つみかさねの上に 咲く花  
つみかさねの果てに  
熟する実  
それは美しく尊く  
真の光を放つ



## ◆医療従事者に必要な資質 その3

### その1:技 その2:知識 その3:心

この3つが医療従事者に不可欠な資質です。今回は**その3の心**について話をします。

いくら知識があっても、技術があっても、それは必要条件を満たしているにすぎず、医療従事者としての心を備えることで、十分条件を満たすこととなります。

昔、「赤信号、老人、子ども、白い杖」という交通標語がありました。社会的な弱者である老人、子ども、白い杖(体の不自由な方)には一層気を付けようという意味です。

患者さんも同じように社会的な弱者といえます。体を病み、心を病んで病院に診察に来ています。辛い思いをかかえているのです。

そのような患者さんには、医療従事者の優しさが身にしみます。笑顔、優しいまなざし、言葉掛け、気遣いなど。それで患者さんの気持ちは救われるのです。



おはようと挨拶をする  
ありがとうとお礼をいう  
脱いだ靴をそろえる

教育の父、森信三先生が、子どものしつけは上の三つだけでいいといわれています。それもひとつ、ふたつ、、、九つと「つ」が付く間にだそうです。おとなでも、おはよの挨拶すらできない人がいます。ましてや、靴を揃える人がどれだけいるか、はなはだ疑問です。

子どもは親のいうことはしませんが、親のすることは真似をします。親がスマホやテレビばかりみて、子どもの本を読めといっても子どもは読みません。子は親の鏡とも、どの子も育つ親次第ともいいます。

皆さんも、今からでも遅くはありません。友達同士、家族同士、家でも学校でも、挨拶ができ、感謝しあえる雰囲気にしていきましょう。



慮る(おもんばかり)という言葉があります。周囲の状況などをよく考慮することで、思い巡らすという意味を持っています。相手の境遇や状態、または感情などに思いを巡らせ、配慮するといった意味です。

良い医療従事者になるためには、これが必要です。いくら技に長けていても、知識が豊富でも、慮ることができなければ半人前です。

優しく親切で慮ることができれば完璧です。すぐには難しいですが、一日ひとつずつの善行を積むことで徐々にできるようになってきます。是非今から意識して取り組むようにしてください。

